

アメリカの評価研究プロジェクトASK(アスク)について

人見 久城

HITOMI Hisaki

宇都宮大学教育学部

キーワード：アメリカ、科学教育、評価

1. はじめに

学習指導要領の最低基準としての性格が再確認されたことを受けて、発展的な学習に対する研究者・教師の関心が高まり、多くの特色ある実践が進められている。また発展的な学習に加えて補充的な学習も導入され、両者は一括して個に応じた指導と呼ばれている。学習指導要領における内容との対応関係の確認や評価基準にもとづく評価をへて、進んだ学習が可能と判断される子どもに対しては発展的な内容を提供される一方、基礎的・基本的な内容を確実に定着することを必要と判断される子どもに対しては、補充的な学習を行うとされている。しかし、「発展的・補充的な学習をどう位置づけていけばよいか」という課題に対応すべき研究手法や研究事例は豊富ではない。これらの学習の充実を図るための方策や学習内容を、改めて問う必要性が生じている。本研究は、アメリカの評価研究プロジェクトASK(アスク)に注目し、成果として産出される評価項目などが、わが国の個に応じた指導に役立つ可能性があるかどうかについて検討しようとするものである。

2. ASKプロジェクト

ASK(アスク)とは **Assessing Science Knowledge** の略で、アメリカ・カリフォルニア湾周辺地域を拠点として進められている評価研究プロジェクトである。このプロジェクトに参加する研究者の所属は、カリフォルニア大学教育学部、同大学ローレンスホールオブサイエンス、SRIインターナショナルなどで、その専門はカリキュラム開発、教育評価、教育統計等である。主眼が、小学校3~6学年の理科に関する評価研究であることから、小学校教師との共同的研究となり、その遂行においては、カリフォルニア州を含む8つの州に研究拠点がおかれている。2003年6月より全米科学財団の資金援助を受け、2007年5月までの4年間の研究プロジェクトとして研究が進められている。

3. ASKのねらい

プロジェクトの目的は、大きく次の3つにまとめられている(ASK, 2004)。

(1) 小学校理科における学習内容と評価に資する。

① 児童の理科に関するプログレス・マップ(Progress Map; 発展地図)を開発する。

② 全米科学教育基準(National Science Education Standards)やベンチマークに基づき、評価のためのアイテム・バンク(Assessment Item Bank; 評価項目)を集積する。

(2) 開発した評価ツール(上記(1)①, ②)を、小学校理科において活用し、有効性を検証する。

① プログラムの事例としてFOSS(Full Option Science System; フォス)のモジュールを活用して、再概念化を図る。

② 形成的評価および総括的評価のための評価項目を作成し、児童の学習過程を根拠をもって評価する。

(3) 教師教育における活用方法を検討する。

4. おわりに

現在(2005年)、全米各州において、国語(英語)と数学の試験が実施され、統一的に評価されている。2007年からは科学も評価の対象となる見込みである。これらは、**No Child Left Behind**(落ちこぼれの子どもを一人も出さない法律)の一環である。本稿で取り上げたASKプロジェクトは、このような動向を見越して、教室内での通常の授業において、児童の理解の実態を根拠をもって測定しようとするために始められたものである。

翻って、わが国において、発展的・補充的な学習を展開する上で大きな鍵になるのが、「評価規準」である。学習内容に対してどのような評価規準を設定するかという作業は、子どもの評価を適切に行うために必要なばかりでなく、その後の発展的・補充的な学習において、学習内容として何を盛り込むかを定める上でも、重要な役割を果たす。言い換えれば、評価規準が適切な内容を含み、それが明確な表現となっているかが重要となる。これらの課題に対し、ASKプロジェクトの評価項目や方法論から答えを見い出していきたい。

【参考文献】

Assessing Science Knowledge (2004): Project Overview for ASK Panel.

人見久城(2005):アメリカの科学教育における探究活動の強調—初等科学教育プログラム FOSSを事例に一、化学と教育, 53(10), 536-539.